

令和3年度 学校評価[教職員] 年間評価

教育方針	(1) 何のためにを追求 何のために学校に通い勉強しているのか、自己を見つめ、自己の存在感を実感しながら、主体的に学びを深める生徒を育成する。
	(2) 人格の形成 誠実（挨拶・心くばり）、気力（体力・集中力）、智恵（感性・思考）、行動（意識・存在感）、この視点から指導を行い、自己実現を図る生徒を育成する。
	(3) 社会が求める人材の育成 社会的・職業的自立に必要な資質・能力を身に付けることができるようキャリア教育の充実を図るとともに、専門分野の知識・技能を習得して資格取得を目指す生徒を育成する。
	(4) 社会に貢献 社会体験や地域交流等を通して、自らの役割を自覚し、社会に貢献する喜びを味わわせるとともに、奉仕と感謝の心を育て、笑顔のあふれる温かい学校づくりを目指す。

評価（4段階） 4：十分に達成できている 3：おおむね達成できている
2：どちらかというと達成できていない 1：ほとんど達成できていない

※数値は、3と4の占める割合（%）

重点目標	R2	R3	考 察
(1) 生徒一人一人のニーズに応じた学力向上と進路指導の推進			
○わかる喜びを実感させる授業を行い、基礎学力の定着を図る ○生徒が主体的に考え、学ぶ意欲を高める授業改善に努める	77	60	R2年度と同様に学習指導と進路指導を実施したが、数値は前年を下回った。次年度は、生徒の学習や進路決定に取り組む意識の向上を構築できる指導場面（基礎学力・進学の補講等）を増やしたい。
○大学や専門学校等への進学と就職に向けた進路指導を充実する ○職業的自立に必要な資質・能力の育成を目指すキャリア教育を推進する	81	72	
(2) 生徒の思いに寄り添い、自己実現を図るための教育相談体制の充実			
○情報を共有し、問題等の早期発見・早期対応に努める ○個に応じた授業支援、学びなおし支援を推進する	90	88	数値は少し下がったものの高い評価である。次年度も、校内での情報共有がしやすいように、分掌の兼務を無くし、担当者と外部機関との連携をさらに強化していく。
○生徒理解を深め適切な指導に資する研修を推進し、職員の資質向上を図る ○教育、医療、福祉などの関係機関との連携を強化する	86	72	
(3) 広域通信制高等学校として、より質の高い教育の提供と実践の配信			
○広域通信制高校の特長とビジョンを共有する ○様々な通信手段を活用し、迅速で正確な情報の発信を推進する	81	72	本年度も新型コロナウイルス感染症が治まらない中、サポート校との連携をとる工夫（情報交換・マニュアル改訂）を行ったが、数値は下回った。次年度は、リモート授業だけでなく、本部教員の訪問機会を増やすようにしていきたい。
○動画配信等の工夫や本部校での面接指導の充実に努める ○本部校としてサポート校との連携を深め、教育活動への支援を強化する	90	72	

教務部	R2	R3	考 察
個々の生徒の履修状況、学習状況を把握し、適正な成績処理・管理を行う	74	87	成績処理については、教務システムを廃止し、独自のシステムに切り替えスムーズに処理できるようになり数値も向上した。行事等については新型コロナウイルス感染症の影響で完全実施には至らなかったためか低評価になった。次年度は生徒会活動の活発化により、行事の活発化も図りたい。
非活動生徒を把握し、早期に発見し、早期に対応する	95	87	
生徒・保護者・教員の転編入相談や個人相談に丁寧に対応し、適切に処理する	100	96	
学校行事や特別活動を計画的に実施し、目標の達成度を適切に評価する	63	55	

進路指導部	R2	R3	考 察
各学年に応じた進路情報を提供し、早期に目標設定ができるよう指導を行う	84	68	前年は3項目ともに一昨年より大幅な数値の向上をみたが、今年度は、進路担当を中心として生徒個々人に応じた指導をしたものの数値が下がってしまった。次年度は、ホームルームにおいて早い学年からの指導を計画し実施したい。
進路ガイダンスや学校見学会等への積極的な参加を促し、意識の高揚を図る	95	87	
個々の進路希望に応じて、学力保障のための補習、面接指導等を計画的に行う	84	82	

生徒指導部	R2	R3	考 察
挨拶、身なり、時間の遵守など基本的なマナーを身に付けた生徒を育てる	39	61	基本的な生活習慣については、生徒アンケートでは昨年同様高い数値であり、教職員の

生徒会活動等を通して、目的意識をもって主体的に活動する生徒を育てる	83	73	数値も大きく上がった。担当者が熱心に根気強く指導した結果が現れてきた。生徒会については、次年度は人選を考え活動の活発化を図りたい。
諸活動での生徒の安全に留意し、生徒が安心して活動できる環境をつくる	72	96	
健康的な生活を心がけ、自己管理能力を向上させるよう支援する	56	73	

教育相談部	R2	R3	
支援を必要とする生徒の把握と情報の収集に努め、問題の早期発見を図る	100	91	全項目100とはならなかったが、前年に続き高評価である。SSWの努力と各学年団との情報共有が適切に行われた結果であろう。唯一、数値が下がった項目については、91%の数値に油断することなく、問題の早期発見ができるよう関係者の連携・情報共有を強化していく。
SC、SSWとの情報共有を密にして、個別の支援計画による適切な支援を行う	100	100	
受容を心がけるとともに、生徒とのふれあいを深める環境づくりを推進する	100	100	
教育・医療・福祉等関係機関との連携を密にして、きめ細やかな指導を行う	100	100	

企画広報部	R2	R3	考 察
マスメディア、ホームページ等を用いた広報展開に努める	89	100	昨年に引き続き、本年はさらに三項目とも数値は向上した。特に広報展開の項目は、マスメディアからの協力も得られ100%の評価となった。不登校支援についても47→67→74と向上してきた。次年度はゆめ未来支援協会と外部機関の協力体制をさらに強めていきたい。
各夢未来高等学院の教育活動に係るニーズを捉え、的確に支援する	89	96	
ゆめ未来支援協会との連携による不登校支援を継続して推進する	67	74	

教育環境	R2	R3	考 察
施設・設備の安全点検や補修を定期的実施し、教育環境の保全に努める	76	96	教育環境の保全については、53→76→96と順調に向上した。環境美化についても高評価ではあるが、油断することなく日頃の点検の充実を図る。
校内巡視による清掃状況、掲示物点検を徹底し、環境美化に努める	71	88	

1 学年	R2	R3	考 察
①礼儀の習得：挨拶・身なり・時間厳守など基本的マナーを身につけさせる	65	64	保護者との連携は昨年に続き高い評価である。各担任が適切に保護者への連絡を怠らなかつたためであろう。あとの3項目が少し低い数値となり、特に礼儀の習得については、生徒指導部との連携により新たな取り組みを検討する必要がある。
②基礎学力の向上：振り返り学習を行い、基礎学力の向上を図る	88	73	
③保護者との連携：保護者との情報共有・連携により心身ともに安定した学校生活を送らせる	94	95	
④携帯電話の適切使用：SNS等の活用について指導を徹底し、トラブルの防止と安全確保に努める	65	68	

2 学年	R2	R3	考 察
①雰囲気の良いクラス：生徒個人の特性や友人関係を把握し、過ごしやすいクラスづくりに努める	71	95	4項目ともに数値は向上し高評価になった。担任等が個々の生徒に目を向け保護者との連携にも努力した結果である。次年度は、2年次後半から実施している進路指導をさらに深化させ、希望進路決定を実現させたい。
②各人の目標設定：一人一人の状態を把握し、目標をもって学校生活を送らせる。	88	90	
③教室内の環境整備：ユニバーサルデザインに配慮した教室の整理整頓に努める	71	90	
④進路意識の喚起・醸成：3年生での進路決定に向けて、自己理解を深めさせる	88	90	

3 学年	R2	R3	考 察
①3学年としての意識付け：最高学年としての自覚をもち、模範となるような意識・態度を養う	72	75	四項目ともに若干の変動はあるが全体的には高評価と思われる。年度当初は、3学年としての意識・進路決定への意欲等にかけている生徒が多かったが、担任等の努力により多くの生徒が進路実現を達成できた。今後は、一年次からの進路指導を計画的に行う必要がある。
②授業態度の醸成：授業前の教材準備等、落ち着いて取り組む授業態度を養う	89	80	
③積極的な態度の育成：学校行事・清掃活動等に責任を持たせ、積極的に取り組む態度を養う	82	75	
④進路の決定：自分を見つめ、適正に把握し、主体的に進路選択ができるようにする	100	90	

在宅通信	R2	R3	考 察
①計画的な学習：指示を適切に行い、レポートや報告書は期限を守って提出できるようにする	76	81	四項目ともに高評価となった。特に②の相談部との連携については、担任と相談部等との連携を密に行ったことで不登校生徒への学習指導も充実したものとなってきた。次年度は、意欲ある生徒への希望進路実現と、進路に迷っている生徒たちへの根気強い指導が望まれる。
②相談部との連携：情報の共有に努め、生徒が安心して計画的に学習を進められるよう支援する	82	95	
③確実な進路の情報提供：情報を早めに提供し、相談しやすい雰囲気づくりを行う	82	81	
④規則遵守指導：学校の規則を遵守する意識を養うため、スクーリング時に指導する	82	86	